

(様式⑦ 小中学校) 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】										堺市立登美丘東小学校 校長 森 崙 章代			
中学校区におけるめざす子ども像 失敗を恐れずに自分で考えて決断できる子～自分からチャレンジ！そして未来を切り拓く～													
令和6年度 重点目標 学校教育目標の「自分らしく輝く子ども」を「自ら問題を発見し、仲間とともに解決しようとする主体的な子ども」と捉え、誰一人取り残さない安心・安全で楽しい学校、子どものよさを伸ばす教育を行うため「『学びをつくる』と『互いを理解する』『自分からチャレンジする』」を本年度の重点目標とする。そのため、教職員が子ども理解に努め、子どもが自ら学びをつくる授業の実現をめざし、問題解決的な授業を行うとともに、お互いを理解し支え合う仲間づくりに取り組む。学校全体で課題解決の実現に向かうため、教職員もお互いを知り、学年、各分掌、キャリア等で協働できる職場づくりを行う。自ら学び、発信し、お互いが学び合う人が育つ好循環をつくる。													
学びの現状・ 令和5年度全国学力・学習状況調査では、算数科、国語科、理科ともに全国と同程度の学力を身につけており、「知識・技能」はよく身につけている。一方、「思考力・判断力・表現力」については全国を下回る教科もあり、伸長が期待される。CBT 調査では、本校の特徴の英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う児童の割合は高く、多様な考えを受け入れようとする児童も多い。しかし、失敗を恐れず自分から取り組むことには課題がみられる。「自分の学びを自分でつくる」という学習のサイクルを大切に、「自分が問題を発見する、自分で解決の見通しを発想する、活動し振り返る」の3つのサイクルを大切に指導の工夫を行う。また、思考力・判断力・表現力伸長のため、自分の考えを ICT も活用しながら、個性的な表現活動の機会を大切にする。										「豊かな心・健やかな体」の現状 体力面において、令和5年度には、ナイスランニング、ボール投げ、立ち幅跳び、リズム縄跳びなど、20分休憩にできる体力づくりに取り組んできた。「新体力テスト」の結果を見ると、種目にもよるが堺市の結果と同程度または、低い結果となっている。特に立ち幅跳びの結果は課題が大きい。豊かな心において、本校では、縦割り活動を続けており、高学年が低学年を支える文化が根づいている。約束を守る児童も多く、決まったことに熱心に取り組む。一方指示を待つ傾向もあり、自分で判断し、良いと思ったことは進んで取り組む力の育成が必要である。			
項目	中項	具体目標	評価項目 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	実状・実施状況 学ア:学校アンケート	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)		達成状況 (年度末)			
										自己評価		学校関係者評価	
総合的な学力	主体的に学び続ける子	学力向上	【学習内容の定着】 朝の学習で、ドリルパーク等を用いて基礎・基本を定着させたり個々に合わせて学習を進める。また、読書をする習慣を確立する。	学習の定着を図るためのドリルパークを活用した学習を週に2回以上復習を行う。本を手にとって読みたくなるような環境づくりを行う。	実状	2月	○	テスト前や授業のすきま時間などにドリルパークを活用している。また、定期的に持ち帰り、家庭学習としても取り組んでいる。	○	朝の学習の時間には、ドリルパークと読書に取り組むことができた。また、夏休みや冬休みをはじめ普段にもドリルパークで学習の定着を図った。算数科においては、3年間研究を続けることにより、3～6年生で、「好き」と回答する児童が 14P 増え大きな成果だった。しかし、70%台である結果は、まだまだ伸びしろがある。	○	毎日の積み重ねで定着が感じられる。夏・冬休みにはドリルパークに取り組めた。教科書も使ってほしい。	
			【思考力・判断力・表現力の伸長】 単元単位でねらいを明確にもち、問題意識の醸成・見通しを大切にした授業づくりを進めることにより、主体的な学びづくりに取り組む。	「算数の授業は好きですか」肯定的な回答75%以上 ノートに自分の考えを論理的（根拠をもち順序良く）に書くことができる。	学ア 実状	1月	○	子どもの問題意識が、導入場面だけにとどまらず、授業の中盤や終盤でも持続し続けることができる問いかけの工夫をしている。	◎		◎		
		個別・最適な学び、協働的な学びの実現をめざした授業改善	【学びをつくる】 自ら問題を発見し、解決のための見通しをもち、活動してふりかえる探究的な学びに取り組む。 また、自分で計画を立てて自分で選択して学びに取り組む。	「問題をとくときにこれまでに習ったことが使えないか考えている」肯定的な回答80% 「自分で計画を立てて勉強していますか」肯定的な回答80% 「難しいことでも自分からチャレンジしている」	学ア	1月	○	こちらから課題を与えるのではなく、子どもが自ら課題を発見し、設定ができるように意識している。	△	「自分で計画を立てて勉強」高学年71%「普段からなぜだろう、調べてみたい」の割合も76%で、取組は十分でない結果となった。普段から疑問をもって自分で解決しようとする「探究的な学習」において課題が大きい。子どもが社会に働きかける機会は多かったが、「自分からチャレンジ」は、低65%、高81%で課題が残った。それぞれの個性ある取り組みを紹介し、自主学ノートの取組の幅も広がった。PCの活用は、上学年が下学年に技術指導をしたり、スクリーンやホワイトボードでの発表も定着し、子どもの活用能力があがった。書くことも大切に学年に応じて効果的な使い方を考えている。「総合的な学習の時間が好き」85%だったが低学年の「生活科の授業が楽しい」で大幅な低下がみられた。振り返りでは、充実感を感じている様子はあった。英語が好きな児童の割合は高かったが、自分から積極的に英語を使って話してみようと思えますか」については79%とやや課題が残った。スモールトークを行うが昨年より低い数値は今年は訪日がなかった影響が考えられる。	○	主体性を意識して大人が働きかけ、子どもが選択等行っている。PC活用で発表の場面が多かった。自分からチャレンジをテーマにした150周年の取組も印象的だった。自分で考えることにより興味が増した。自分で計画を立てるのは難しいが積極的になされている。	
			★【主体的に学ぶ】 自主学習ノートに取り組むことにより、興味・関心を広げたり学んだことを深めたりする。自主学習ノートの取り組みを紹介する場を設定する。	全学年で週に1回程度自主学習ノートに取り組む。 「ふだんから調べてみたい、なぜだろうと思うことがある」70%以上	実状 学ア	1月	○	全学年で隔週に1度程度取り組んでいる。模範となる自主学習ノートを全校で共有する取り組みにより、自主学習の幅が広がった。	○		○		
			●【児童のPCの活用】 さまざまな場面で児童用タブレットを使い、堺市情報能力チェックリストをもとに各学年情報活用能力の伸長を図り、効果的に活用できるようにする。	「週3回以上、授業で児童が1日10分以上PCを活用している」100%、堺市情報活用能力チェックリストをもとに、情報活用能力育成のための取り組みを行う。	実状 学ア	2月	○	概ね様々な教科・領域で活用できている。低学年に対して、上学年の児童が操作方法を教えたり手伝ったりするなどしている。	◎		◎		
			●【カリキュラムマネジメント】 調べたい課題を持ち、さまざまな調査方法で調査し、わかったことや思ったことを発表する活動を行う。その際、学んだことが生かせるように工夫をする。	「総合的な学習の時間が好きですか」80%以上 「自分から積極的に英語を使って話してみようと思えますか」高学年84%以上	学ア	1月	○	総合的な学習の時間は、社会参画の機会を設定し社会に貢献できる機会を作っている。スモールトークを必ず行っている。	◎		◎		
豊かな心・健やかな体	心身ともにたくましい子	体力向上	【体力づくり 持久力・コア向上】 20分休憩の体力づくりを児童が主体となって年間を通して実施し教職員ともに参加する。特に、持久力向上のための取り組みを行う。	「体力づくりに進んで参加している」肯定的な回答80%以上 「外で体を動かすことは好きですか」肯定的な回答85%以上	学ア	1月	○	20分休憩の持久力向上の体力作りを週に1回行っている。スポーツフェスティバルでは、各学年実行委員を作り、子どもが主体的に取り組めるように行っている。	○	リズム縄跳びやナイスランニング等体力づくりを行ったが、「進んで…」は低学年が前年度よりも9p下がった。全体的に外遊びをする児童も減少傾向にあり外遊びの楽しさを感じる機会を増やし体を動かす習慣を身につけさせたい。体育的行事では、委員会や実行委員の児童が中心に、内容を企画・運営し主体的に動く姿がよく見られた。食育では、1年:箸の持ち方、4年:パランスの良い朝食、5・6年:今年度導入「食育アプリ」を利用し食への興味が高まった。	○	実行委員・委員会活動が積極的である。縄跳や20休に教員と一緒に遊んでくれ、楽しさや機会につながっていた。遊ぶ時間が短く外に出る子どもでない子の差がつかく懸念がある。	
		健康な生活	【健康な体づくり】 自分の心身の健康を守るための話を継続的に言い、児童が主体となって健康を守るための活動に取り組む。栄養教諭と連携して各学年で食育の実践を行う。	1年に1回以上、健康診断の機会に健康講話を行う。また栄養教諭と食育を各学年1回以上行う。 「食べ物のことや食べ方について知ことは楽しい」の肯定的回答80%以上	学ア	1月	○	4月・10月に発達段階に応じた保健指導、また3年生に歯科指導を実施した。食育授業が各学年計画的に行われている。	◎		◎		
	生活をよりよくしようとする子	安心安全な学校・学級	【いじめ】 いじめ防止のため一人ひとりにあった「居場所と出番」がある学級集団をつくる。いじめが起こった際には、いじめ対策基本方針にのっとり適切に対処する。	生活をよりよくするアンケートを1年に3回、同じ日に実施し、アンケートの内容について子どもの思いをたずね、すべての事案に対応する。100%	実状	2月	○	2学期まで実施済み。子どもの様子を日々観察している。また、行事や授業でも、活躍できる場をつくり活動している。	◎	アンケートは全学期実施し聞き取りも行った。会議だけではなく、日々教職員間で子どもについての情報交換・チーム対応ができた。保護者の不安を教育相談につなぐことができた。学校に行きやすくなっている。「みそあじ」のきまりを年間意識する機会を継続させた。委員会活動で廊下歩行やけがの防止活動を行いはきものをそろえることや廊下歩行などが定着した。よりよく生活しようとする高学年の児童は例年同様の結果だったが、低学年は10p下がり課題が残った。行動のよさを今後も認めていきたい。	◎	悩みに一人ずつ対応する等寄り添う大人の関わりがあった。話を聞いてもらえる安心感ある学校生活。家でも不安を話せるようになってほしい。不登校が少なく、学校はチーム連携できている。	
			【不登校対応】 普段から子どもの話を聞き、不登校防止に取り組む。教育相談を申し込みやすい環境づくりを推進する。	気になる子どもの状況を子ども支援委員会で共有し、教育相談につなぐ。100%	実状	2月	○	きめ細やかな対応、情報共有を通じて、今まで登校しにくかった児童も登校できている。	◎		◎		
			【よりよい生活】 「みそあじ」を合言葉に、履物をそろえと挨拶と正しい廊下歩行に取り組む。実行委員会や係活動・委員会活動で自分ができることを自分から取り組む。	「学校のきまりを守っている80% 「相手の気持ちや場の状況を考え、自分の思いをもって行動している」80%	学ア	1月	○	児童の様子や情報共有で入ってきた情報をもとに、朝礼の時間を通して講話をしている。委員会が中心となり廊下歩行啓発も行えた。	○		○		
	互いを認め合い、支え合う子	違いを認め合える仲間づくり～	【人権教育】 体験活動を充実させ、自国の文化だけでなく他国の文化、自分以外のものの考え方に触れたり、男女平等の取組、自分とは違う考え方に触れたりする機会をもち、自分らしさも大切にして、友だちも大切にする。 また、マイノリティの意見も大切にする。	「普段から、ふわふわ言葉をつかっている」80%以上 「クラスの友だちや先生などほかの人のことをもっと知りたいと思えますか」80% 「自分には、よいところがあると思えますか」70% 「自分とは違う考えをうけ入れることができますか」70%	学ア	1月	○	全学年「ふわふわことば」の授業実践を1学期の参観時に実施済み。また、ふわふわ言葉の木・ワークシートの掲示も行った。ジェンダー平等をテーマにした公開授業実践予定（3学期）	○	「普段から、ふわふわ言葉をつかっている」は80%以上を超え普段から優しい言葉を使おうとする意識が高まった。「クラスの友だちや先生などほかの人ののことをもっと知りたいと思えますか」と「自分には、よいところがあると思えますか」はそれぞれ80%と70%のポイントは超えている。自他ともに大切にすることの指導を今後も続けたい。「自分とは違う考えをうけ入れることができますか」では全学年で70%を超えているが、低学年ではポイントが下降傾向なので、学年や子どもたちに合う指導内容の検討を続けたい。「まわりにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えているか」では概ね80%を超えているが、低学年については81%と課題が残った。	○	多様性を伝え、それぞれを認め合える場を作っている。道徳の授業での内容や定着で互いを認めることや自分にできることを考えている。素晴らしい取組である。	
【特別支援教育】 自分と自分以外のちがいを理解するため、支援学級との交流会、啓発授業を行う。			「まわりにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えていますか。」80%以上	学ア	1月	○	4年で啓発授業、3年でボッチャ体験交流を実施済。年間で各学年ごとに啓発授業または交流会を実施予定。居住地交流会の実施済。	○		○			
	する子	地域・協働	【地域を知る】 150周年記念事業を通し、学校や地域のよさを感じることができるようになる。	「学校の行事や児童会活動は楽しいか」肯定的な回答80%以上 「この学校・地域が好きか」肯定的な回答90%以上	学ア	1月	○	150周年行事をみんなで作ることを通して地域に触れる機会を持つことができている。	◎	「この学校・地域が好き」は90%を超え、記念式典や総合の時間を通じ地域に触れる機会も多くよかった。	◎	地域との取組がたくさんあり子どもがよさを感じていた。	
校長より (年度末) 記念式典もあり地域とともに過ごしてきた1年間でした。大変お世話になりました。子どもの思いに耳を傾けながら、「自分で進める学び」をさらに進めていきたいと思います。							学校関係者評価から (年度末) 実行委員会など自分たちで進めようとする姿がありました。調べたことや活動したことの発信の場が数多くあり、子どもの主体性が感じられました。学校はチームで取組んでいました。						